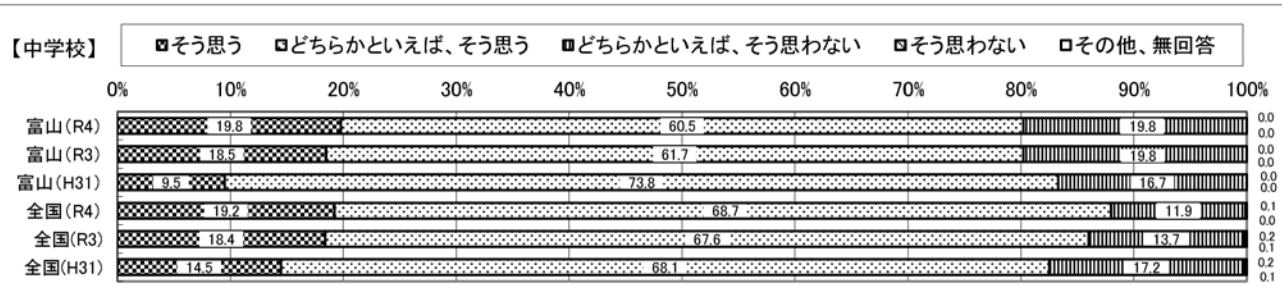
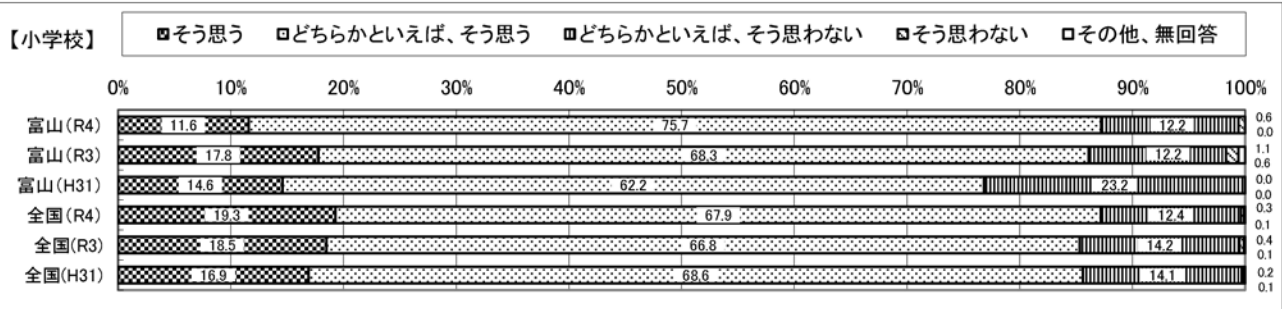


## V 学校質問紙調査結果の概要と分析

### 1 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

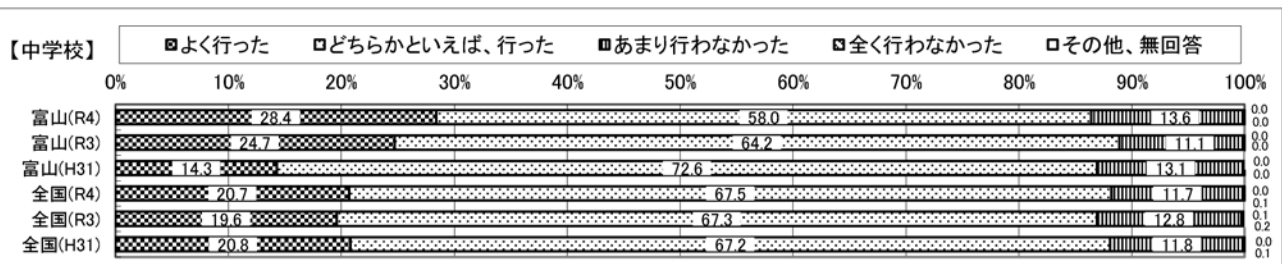
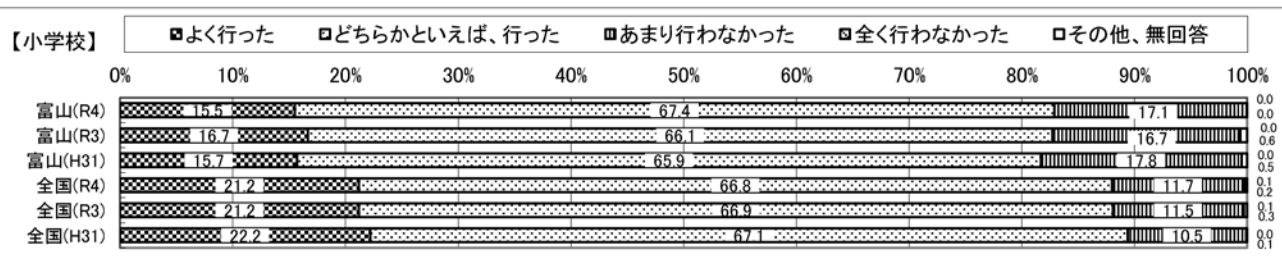
(1) 調査対象学年の児童（生徒）は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか（質問小中 23）

- ・「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と回答した学校の割合は、小学校では令和3年度より1.2ポイント増加し、全国と比べて同程度である。中学校では令和3年度と同程度であるが、全国と比べて大変低い。
- ◎児童生徒の学びが主体的なものとなるよう、生活体験や興味・関心を基に学習課題を設定したり、活動の手順等を分かりやすく示し、見通しをもって学習に取り組むことができるようにしたりするなど、児童生徒の学ぶ意欲を向上させる工夫が必要である。



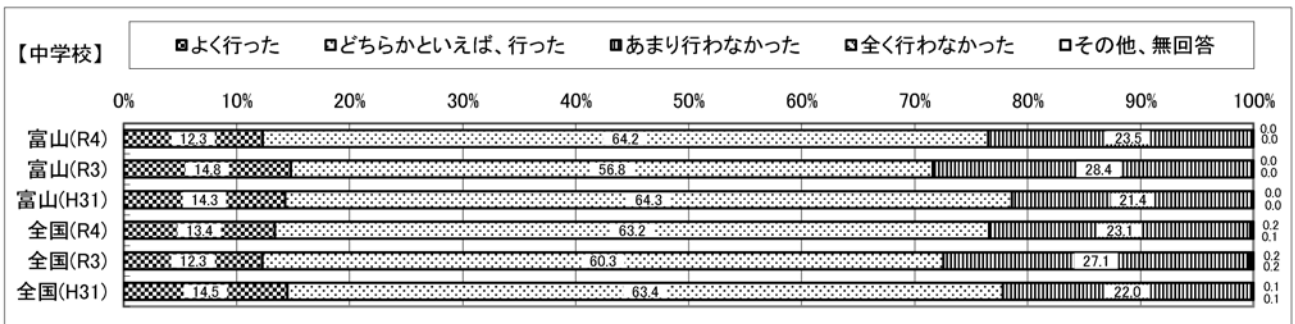
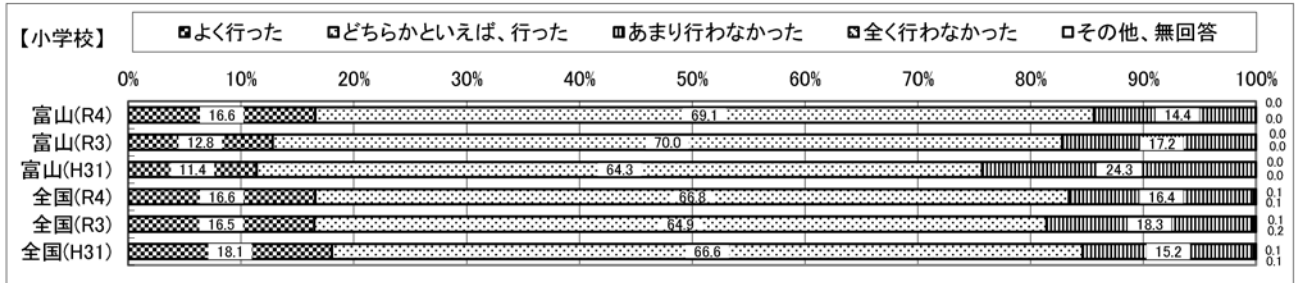
(2) 調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか（質問小中 30）

- ・「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合は、小学校では令和3年度と同程度であるが、全国と比べて5.1ポイント低い。中学校では令和3年度より2.5ポイント減少し、全国と比べて1.8ポイント低い。
- ◎習得した知識及び技能を活用する問題解決的な学習過程を重視した取組を積極的に進めることが大切である。



(3) 調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか（質問小中 31）

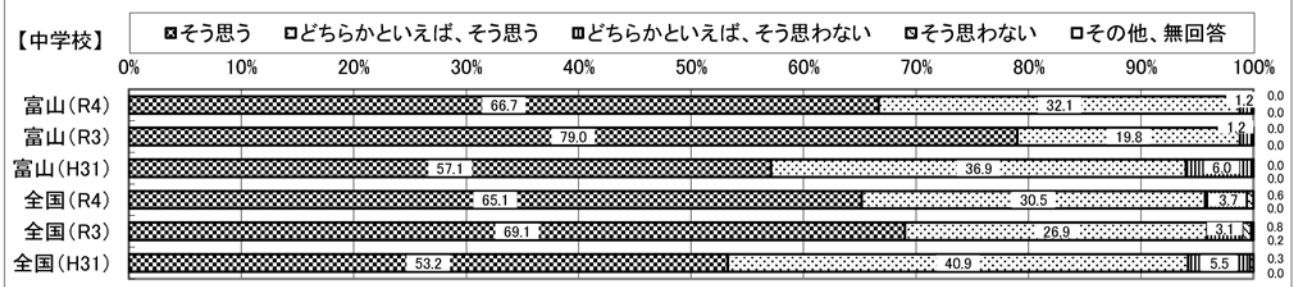
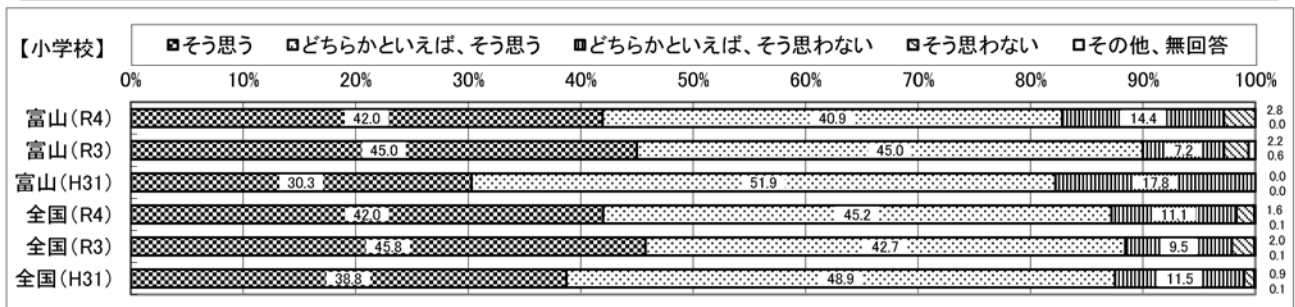
- ・「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合は、小学校では令和3年度より2.9ポイント増加し、全国より2.3ポイント高い。中学校では令和3年度より4.9ポイント増加し、全国と同程度である。
- ◎深い理解を伴う知識の習得につなげるために、既存の知識・技能を関連付けて考えたり、他の学習や生活の場面で活用したりする学習活動を行うことが大切である。



## 2 挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感等

(1) 調査対象学年の児童（生徒）は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか（質問小中 7）

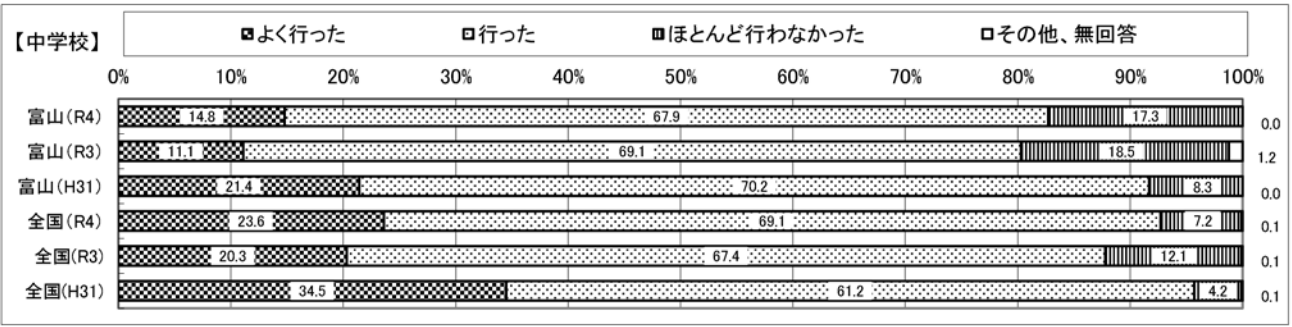
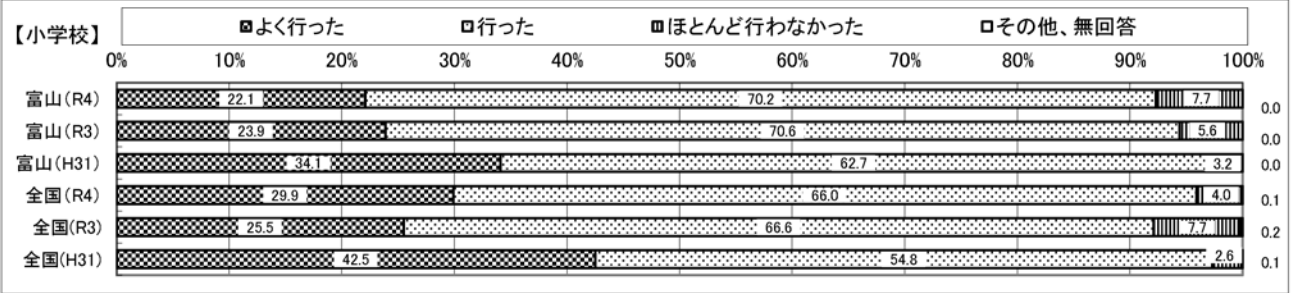
- ・「授業中の私語が少なく、落ち着いている」の質問に、「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と回答した学校の割合は、小学校では令和3年度より7.1ポイント減少し、全国と比べても4.3ポイント低い。中学校では令和3年度と同程度であり、全国と比べて3.2ポイント高い。
- ◎今後も、児童生徒との信頼関係を築きながら、集団の学習規律を高めることが大切である。また、児童生徒の特性を十分把握した上で、指導技術の向上、指導方法や指導体制等の工夫改善を図り、児童生徒が分かる喜びや学ぶ意義を実感できるように日頃の学習指導を一層充実させることが必要である。



### 3 全国学力・学習状況調査等の活用

(1) 令和3年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけでなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか（質問小 80・中 78）

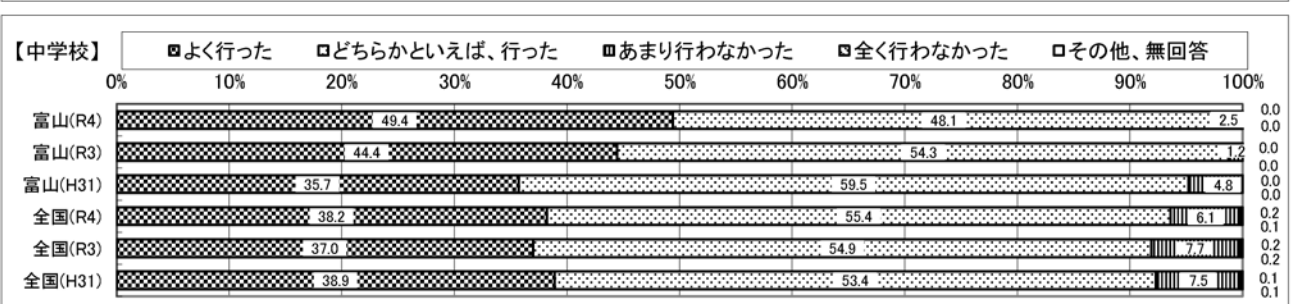
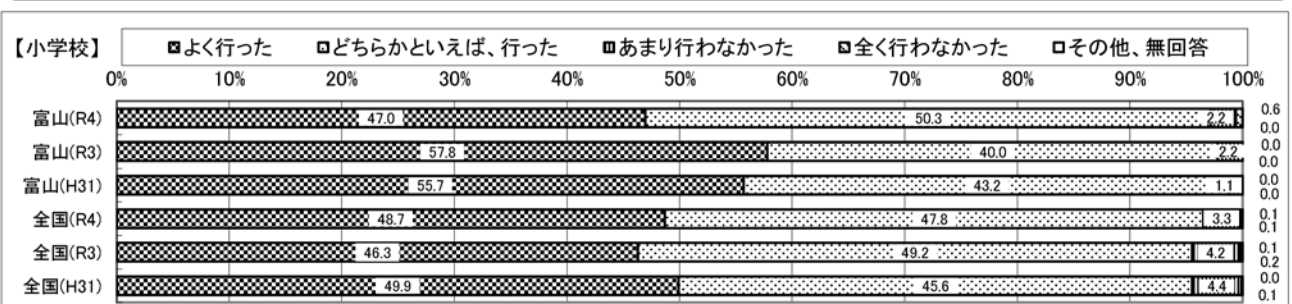
・「よく行った」「行った」と回答した学校の割合は、全国と比べて小学校では低く、中学校では大変低い。  
 ◎結果を基に児童生徒の傾向や課題を把握したり、課題がみられた点を中心として校内研修を実施したりするなど、分析結果を有効に活用して児童生徒の学力や生活の改善、向上に努めていくことが大切である。



### 4 家庭学習

(1) 調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えましたか（質問小 77・中 75）

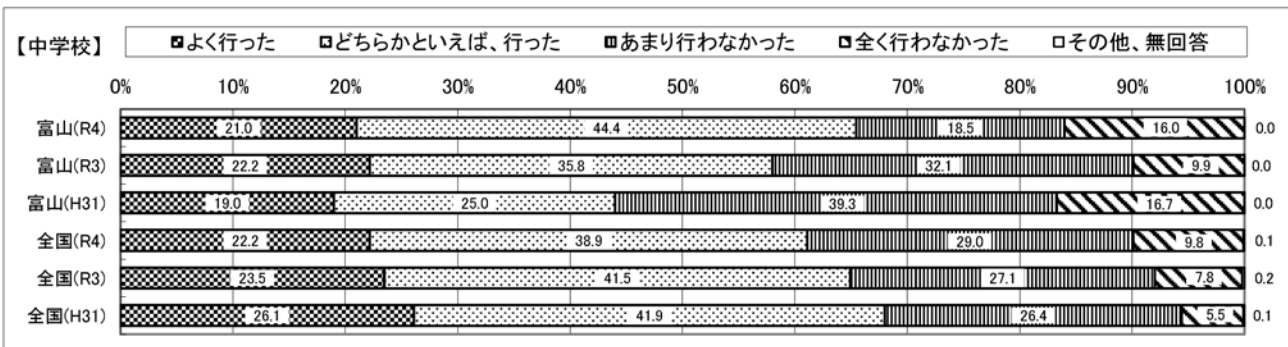
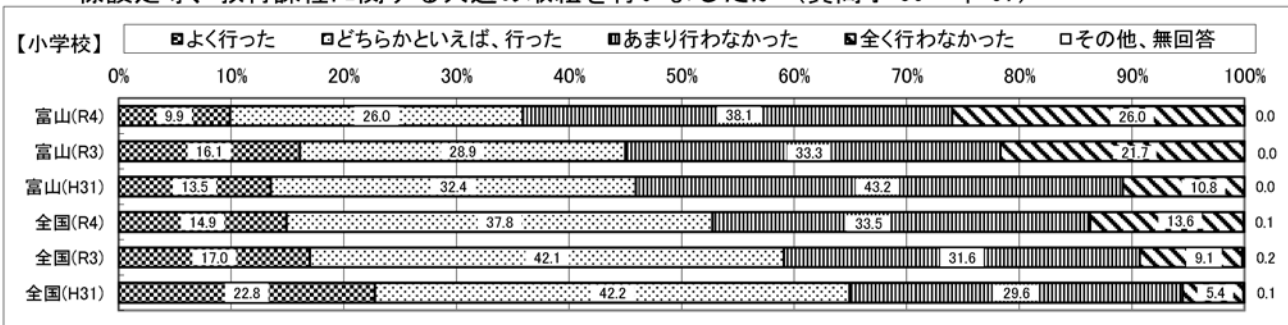
・「家庭学習の取組として、学校では、児童（生徒）に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教える」の質問に、「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合は、全国と比べて小学校では同程度、中学校では高い。  
 ◎児童生徒の発達の段階に応じた家庭学習の在り方について、教職員で共通理解を図りながら指導を継続していくことを通し、児童生徒の学習習慣の確立へとつなげていくことが大切である。



## 5 小学校教育と中学校教育の連携

- ・「近隣等の中学校（小学校）と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組を行った」の質問に、「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合は、全国と比べて小学校では大変低く、中学校では高い。
  - ・「近隣等の中学校（小学校）と、授業研究を行うなど、合同で研修を行った」の質問に、「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合は、全国と比べて小学校では大変低く、中学校では同程度である。
- ◎小学校教育と中学校教育の一層の連携に向けて、各学校において主担当者を校務分掌として位置付けたり、合同研究会等の日程をあらかじめ年間計画に組み込んだりするなどの工夫が考えられる。

(1) 前年度までに、近隣等の中学校（小学校）と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組を行いましたか（質問小 69・中 67）



(2) 前年度までに、近隣等の中学校（小学校）と、授業研究を行うなど、合同で研修を行いましたか（質問小 70・中 68）

